

バックナンバーは「GUNMAS」および当センターHP (<https://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>) に掲載しています

地域医療研究・教育センター センター長あいさつ



地域医療研究・教育センター長の廣村桂樹です。令和6年度より、センターの運営に携わっております。副センター長には、引き続き池田佳生教授および松井佐知子副看護部長にご就任いただいております。

当センターは、「臨床研修部門（臨床研修センター）」「スキルラボ部門」「男女協働キャリア支援部門」「看護職キャリア支援部門」「地域医療支援部門（群馬県地域医療支援センター、ぐんま医療人ネットワーク）」「看護師の特定行為研修部門（看護師の特定行為研修センター）」「管理運営部門」の7部門で構成されています。各部門が相互に連携しながら、群馬県の未来の医療を担う人材の育成とキャリア支援に取り組んでおります。

各部門では、池田佳生教授（臨床研修センター）、田中和美教授（スキルラボ部門）、羽鳥麗子先生（男女協働キャリア支援部門および地域医療支援部門）、松井佐知子副看護部長（看護職キャリア

支援部門）、正田望先生（看護師の特定行為研修部門）が、それぞれ中心となって活動を推進してくださっています。また、管理運営部門は事務部が担っております。

群馬県地域医療支援センターでは、國代尚章部長（群馬県健康福祉部）がセンター長を、私が副センター長を務めております。地域医療枠学生の定員は従来年間18名でしたが、群馬県における医師不足への対応をさらに強化するため、昨年度より県外大学にも枠を広げました。昨年度は群馬大学23名、県外大学4名の計27名、本年度からは群馬大学25名、県外大学6名の計31名を定員としております。地域医療支援部門では、地域医療枠学生への支援をはじめ、県内の地域医療の充実に向けて尽力してまいります。

本年度も、各部門が一体となって、地域に根ざした医療人材の育成とキャリア支援を推進し、群馬県の地域医療の発展に貢献してまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

各部門の活動報告

臨床研修部門

新規採用研修医 よろしくおしいたします！

今年度、医科8名・歯科2名の計10名の研修医が入職いたしました。様々な出身大学、出身地のみなさんが、群大病院で医師/歯科医師としての第一歩を踏み出し、日々研鑽を積まさせていただきます。病棟・外来のスタッフの皆様におかれましては、2年目研修医8名（医科7名・歯科1名）と併せて引き続き温かいご指導をいただけますよう、どうかよろしくお願いいたします。



研修医オリエンテーションご協力ありがとうございました！！

4月1日から7日まで週末を挟んでの5日間、例年通り新入職研修医を対象にしたオリエンテーションを実施しました。内科、外科、検査部・感染制御部、輸血部、医療の質・安全管理部、システム統合センターなどの各科・部署の皆様にご多大なご協力をいただきました。誠にありがとうございました！

令和8年度群馬県新臨床研修医合同オリエンテーションについて

令和8年4月9日（木）にホテルラシーネ新前橋において群馬県新臨床研修医合同オリエンテーションが開催され、当院ほか、県内すべての臨床研修病院の研修医（医科）が参加しました。当日は、山本一太知事のビデオメッセージや須藤英仁県医師会長からの挨拶、群馬県医師会等の紹介が行われ、その後に日本医師会会長の松本吉郎先生からの特別講演をいただきました。最後に参加者全員による懇親会が開催され、斎藤病院長、廣村地域医療研究・教育センター長もご参加のもと、貴重な情報交換を行うことができました。

各診療科の運営委員の先生におかれましては、研修医の参加についてご配慮いただきありがとうございました。



当日の合同オリエンテーションの様子

男女協働キャリア支援部門

医療人として輝くために

男女協働キャリア支援部門では、出産・育児・介護等で臨床現場を離れた医師が、無理なく通常業務に復帰できるよう、フレキシブルな勤務時間の選択を提案しています。令和8年度の利用者は43名（6月現在）で、平成18年度の部門開設以来、のべ204名の医師が、再教育プログラムである「医師ワークライフ支援プログラム」を活用しています。これまでに、プログラム修了者数は165名（80.9%）にのびります。

当部門では、キャリア形成に関するニーズ調査や個別面談を実施するとともに、医学科ダイバーシティ推進委員会や全学ダイバーシティ推進センターと連携し、ダイバーシティ＆インクルージョンに関するシンポジウム、セミナーの企画・開催に取り組み、情報発信を行っています。また、県や県医師会と連携し、保育サポーターバンク委員会活動や医学生・若手医師に対するキャリア形成支援や啓蒙活動にも取り組んでいます。



《医師ワークライフ支援プログラム》

出産・育児・介護等で臨床現場を離れた医師が、復帰後直ちに臨床医として通常業務に復帰するまでの再教育支援、及び現職の医師が離職をせずに高度医療の継続的な知識・技術の習得を可能とするよう、各自の意向に沿った支援を行います。



地域医療支援部門（地域医療支援センター）

ぐんま地域医療会議における医師数等実態調査

直近の医師数調査によると、群馬県の人口10万人当たり医療施設従事医師数は249.9人で、全国平均(267.4人)を下回っています。県では医師の適正配置を目的として、毎年、県内全病院(令和7年度：126病院)を対象に、医師数、診療科別の宿日直状況、患者数等に関する実態調査を実施しています。また各診療科医会からの配置要望も踏まえ、ぐんま地域医療会議において地域ごとの医療提供体制について検討を行っています。令和7年度は吾妻圏域における小児科医不足への対応として、新たな医師配置が提案されました。群馬県では「ドクターズカムホームプロジェクト」を推進し、医学部地域枠の拡充(増員・新設)を進めています。地域医療研究・教育センターとしても引き続き群馬県と連携し、地域医療を支える医師確保・配置の取組みを進めてまいります。

地域医療枠新入生の県庁訪問について

群馬県と群馬大学は、県内の医師不足に対して連携し、平成21年度から地域医療枠制度を導入しています。近年、群馬県地域枠として、群馬大学の地域医療枠が増員となり、令和7年度より、県外私立大学にも地域枠新設されています。令和8年度、群馬大学では一般枠20名、編入学4名を迎え、東京医科大学2名、帝京大学2名、杏林大学1名、順天堂大学1名の新入生を迎えました。下の写真は、5月25日（月）に群馬大学の地域枠新入生24名が県庁を訪問し、山本一太知事から激励の言葉をいただいた際の集合写真です。学生からは、医師を志望する動機や地域医療に貢献したいという意思、将来の抱負など、多くの心強い意見が出ました。



《群馬県の地域枠増員》

令和7年度	令和8年度
群馬大学 地域医療枠 23名 編入学3名含む	群馬大学 地域医療枠 25名 編入学5名含む
群馬県地域枠 4名 東京医科大学 2名 帝京大学 1名 杏林大学 1名	群馬県地域枠 6名 東京医科大学 2名 帝京大学 2名 杏林大学 1名 順天堂大学 1名

地域医療枠卒業生の進路について

《令和7年度診療科別就業状況》

内科	計	循環器内科	呼吸器・アレルギー内科	消化器・肝臓内科	内分泌・糖尿病内科	腎臓・泌尿器内科	血液内科	脳神経内科	腫瘍内科
	34	5	2	7	10	1	3	6	0
外科	計	循環器外科	呼吸器外科	消化器外科	乳腺・内分泌外科	肝胆脾外科	小児外科		
	15	2	2	9	1	1	0		
その他の基本領域	小児科	皮膚科	精神科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科
	11	2	3	7	7	4	2	8	5
	計	放射線科	麻酔科	病理	臨床検査	救急科	形成外科	リハビリテーション科	総合診療科
	78	6	10	0	0	6	0	1	6
合計	127								

※赤網掛け：医師不足診療科（第9次保健医療計画）
赤枠：第8次保健医療計画から第9次保健医療計画の変更

《令和7年度地域別就業状況》

中毛	計	群馬大学医師研習病院	前橋赤十字病院	群馬中央病院	老年病研究所附属病院	伊勢崎市民病院	
	71	51	8	4	2	6	
西毛	計	高崎総合医療センター	群馬病院	高瀬記念病院	第一病院	公立藤岡総合病院	公立富岡総合病院
	19	10	1	1	1	4	2
北毛	計	県立小児医療センター	渋川医療センター	利根中央病院			
	11	3	2	6			
東毛	計	桐生厚生総合病院	県立がんセンター				
	7	4	3				
中断	計	県外病院	大学院	海外留学	育休		
	19	6	8	1	4		
合計	127						



※黄網掛け：医師不足地域にある特定病院（第9次保健医療計画）
黄枠：第8次保健医療計画から第9次保健医療計画の変更

令和8年度までに入学した地域枠学生は、300名を超えます。卒業生も200名に迫る勢いで、多くが群馬県内で多様な進路を選択しています。主な特徴としては以下の通りです。

- ・医師不足診療科（外科、小児科、産婦人科、脳神経外科、救急科、総合診療科；第9次保健医療計画）での勤務者が多くなっています
- ・一方、診療科選択は個人の希望によるため、医師不足診療科のみではなく、幅広く多様となっています
- ・約30％が群馬県で特に医師が不足する地域（前橋・藤岡保健医療圏以外）の医療機関で勤務しています
- ・大学院進学・県外研修・海外留学などを選択する卒業生も大勢います

《卒業生にインタビューしました！》

伊勢崎、太田などの医師不足地域で勤務を行ったのち、現在は大学病院で診療を行っています。市中病院で一般的な疾患の診療技術を身に付け、専門医を取得しました。その後、大学では社会人大学院生として研究に従事するとともに、ロボット支援手術なども執刀しており、充実した日々を送っています！



看護師の特定行為研修部門

看護師の特定行為研修部門

看護師の特定行為研修センターでは、地域医療及び高度医療の現場において、医療安全に配慮しつつ、特定行為に必要な専門的な知識及び技術を教育し社会に貢献できる有能な看護師を育成することを研修の目的としています。

令和8年度の特定行為研修受講者は6名です。集中治療領域パッケージと動脈血液ガス分析関連、術後疼痛管理関連を2名、栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連を1名、呼吸器（気道確保に係るもの）関連と呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連、栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連を1名、栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈カテーテル管理）関連を1名が受講しています。受講にあたっては受講料などの免除規定や、看護部にご協力いただいて週1日程度の研究日を設けてもらう等のサポートもありますので、少しでも興味がある方は一度ご連絡いただければと思います。

ご指導いただく先生方におかれましては、実技指導のみならず、実習にご協力いただける患者様へのインフォームドコンセントなど、積極的にご協力いただけますと幸いです。

また、令和7年度に2名の看護師が特定行為研修を終了し、4月6日に特定行為研修修了賞授与式を行いました。日ごろの皆様からの手厚いご指導に感謝申し上げます。今後、臨床現場でどんどん活躍してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



新任教員のあいさつ

新任のご挨拶

地域医療研究・教育センタースキルラボ部門

助教（病院） 熊倉 裕二

2026年4月より、地域医療研究・教育センター スキルラボ部門の助教に就任いたしました。これまで消化器外科医として臨床に従事するとともに、研修医教育や教育デバイスの開発に携わってまいりました。スキルラボは教育機器・デバイスが充実した環境であり、これまでの経験を活かしながら、教育・臨床の双方に貢献できるよう尽力してまいります。微力ではございますが、皆様のお役に立てるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

新任のご挨拶

地域医療研究・教育センター看護師の特定行為研修部門

助教（病院） 正田 望

2026年3月より、地域医療研究・教育センター 看護師の特定行為研修部門の助教となりました正田望と申します。2019年に群馬大学医学部を卒業し、藤岡総合病院で初期研修を行い、群馬大学麻酔科へ入局いたしました。その後群馬県、栃木県の病院で、主に手術麻酔の研鑽を積み、2025年10月から群馬大学医学部附属病院 麻酔・集中治療科で勤務しています。現在は集中治療室での業務を中心にっております。今後は特定行為研修を受けられる看護師の皆様が、安全に特定行為を実施できるよう、充実した研修体制を整えていきたいと思っております。ご協力、よろしくお願いいたします。

新任のご挨拶

地域医療研究・教育センタースキルラボ部門

助教（病院） 館野 航平

今年度より地域医療研究・教育センタースキルラボ部門の助教に就任致しました、群馬大学総合外科学講座 消化管外科学分野の館野航平と申します。出身は群馬県で、初期臨床研修終了後は県内外の関連病院での臨床業務や、大学院生としての研究活動に従事してまいりました。現在は消化管外科の一員として臨床に携わっております。地域医療研究・教育センターでは、主に群馬手術手技研修センターの運営、御遺体を用いたサージカルトレーニングに従事いたします。関係各所の皆様方のご協力を頂きながら円滑な運営ができますよう精進して参ります。今後とも宜しくよろしくお願いいたします。

